



現場から（最近のニュースから）

当たり前から出る



人は生きてると、自分の願うとおりにならないことにぶつかります。最近、漫画原作者が作品をドラマ化する過程で、自分の作品なのに勝手に変えられたことを悲しみ、自殺にまで追い込まれました。それに対して、いろいろな人が意見を出しています。原作者にとっての作品は、自分自身であり、また、自分の子どものように大切なのに、それをまったく違うように変えられることは、耐えがたいことだと原作者側の人々は言っています。人が亡くなっているのだから、反論する人は少ないのですが、脚本家やドラマ制作者、テレビ局の立場、また、番組の視聴率など、いろいろな面でそんなに簡単に解決することではなさそうです。その他にも、どうしようもないと思えることは、あちこちで起こっています。

そのような中で、「そんな時でも自分の考え方ならいつでも変えることができる。そして、それこそが成功の第一歩だ」と説く本があるということです。自費出版から異例の全米ベストセラー書籍を生み出した、ダリウス・フォルーさんの本で、正しいベクトルで考える「思考術」を紹介する「まっすぐ考える」という本です。「当たり前の思考は当たり前の結果しか生み出さない」ということから、すべてを超えて、まっすぐに考えることを語っているということです。

まず、「意思決定」について考えるとき、「当たり前の思考」として一般的に言われる方法があるそうです。これは、アメリカ建国の父の1人で、雷が電気であることを発見したことでも知られるベンジャミン・フランクリンが発明したやり方で、自分が決定することを書いて、それに対して「プラス面とマイナス面」を書き出して、考えるのだということです。たとえば、「仕事を辞めるかどうか」という決定事項を書いて「プラス面：嫌いな仕事から自由になれること」「マイナス面：将来が不確実になること」というようにリストを出して行って、決定するそうです。しかし、この考え方は、一つの決定事項についても、あれかこれかの二者択一でしかありません。もしかしたら、もっとたくさんの選択肢があるかもしれないのに、逃しているということです。たとえば、いまの仕事をしながら、別の仕事を始めてみるというような選択が別にあるということです。私たちは「当たり前」の考えにとらわれ、自分で選択肢を制限してしまうことがよくあると指摘しています。箱の真ん中に正解があって、その真ん中に向かって迷路をたどっていくような、制限された思考だということです。いったん、その箱から飛び出して、高い場所から広く眺めると、まったく違う答えが見えて来るということです。そして、「私たちのほとんどは、この迷路の中にいる状態で生きている。『当たり前』から抜け出すことができないのは、そうでなければならぬと思いついてるからだ。みんながやっている方法から離れれば、自分だけの方法が手に入る。」と教えているということです。(2月5日婦人公論.jp<私たちは決断する際「当たり前の考え」とらわれ、気づかぬ間に選択肢を制限している…全米で話題<自分だけの方法を手に入れる思考術>とはより)

これかあれか、どちらを選んでも苦しいことしかないという箱の中にいるようなとき、「その考え自体が当たり前」に縛られているのだから、そこから抜け出すべきだ」と考えて、実行できれば、新しく出発できるということでしょう。しかし、それを自分の力でできるのでしょうか。どんなに当たり前だと思っていることに捕まっていると分かっても、人の力では抜け出せません。どうしようもない枠から出るには、どうしたら良いのでしょうか。まず、私たちが捕まっている「当たり前のこと」は何かを知り、そこから出るにはどうしたら良いのか知る必要があります。それをいっしょに見てみませんか。



救いの道

だれでも幸せになって、うまくいきたいのに、なぜ人生がこんなにも苦しくてつらいのでしょうか。

予期せぬ事故にあり、やることなすこと、すべてうまくいかず、会社ではやりがいどころか、仕事と人に疲れるばかりです。学校は、もはやいじめの天国になりつつあります。家庭内は冷たい風が吹き、一つ屋根の下でばらばらになり、実際に崩壊しているところも少なくありません。そのうち体は病気になる、心も病んでしまい、眠れない夜が続きます。お酒や薬に頼り、ギャンブルや快樂に走ってみても答えはありません。わらにもすがる思いで占いをし、おふだやお守りをつけてみますが、解けそうにもなく、どんどんひどくなるだけです。

ときには、表では他人がうらやむほどの成功をおさめたのに、裏は穴が開いてもれていくし、隠れた問題でなげき、ため息をつきながら人生のむなしさを感じています。胸にはぽっかりと穴が開いて、埋められません。とても憂うつになって、時々、自殺の衝動にかられます。幻聴や幻覚に悩まされるときもあります。

なぜこうなったのでしょうか。



それは、人が神様を離れているからです。魚が水を離れ、木は土から根を放り出すと枯れて苦しみ死んでいきます。人は神様に会って神様とともにいるべきたましいを持つ存在です(創世記1:27)。ですから、神様と出会う時、すべての問題が解決され、新しい人生が始まります。しかし、人は罪を犯して神様を離れてしまい、二度と神様に会うことができなくなりました。そのときから、目には見えない暗やみの力が、人を運命の力に閉じ込めて、苦しめて滅ぼしているのです。それで、どんなに暴れても抜け出すことができません。どんどん疲れはてて倒れるだけなのです。



神様は苦しみの中にいる人を愛し、この運命の泥沼から抜け出して、神様に会うことができる道を開いてくださいました。その道がイエス・キリストです。イエス・キリストが罪人の私たちの身代わりとなって、十字架を背負い、すべての罪を赦してください(ローマ5:8)、私たちを苦しめていた暗やみと呪いの勢力を完全に打ち砕いて勝利なさいました(1ヨハネ3:8)。そして言われます。「わたしは道であり真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれ一人として神に会うことはできません」(ヨハネ14:6)イエス・キリストは神様に会う道となりました。「疲れて重荷を負っている人はわたしのところへ来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます」(マタイ11:28)と私たちを招いておられます。



もうこれ以上、苦しみの人生にとどまっている理由はありません。道であるイエス・キリストを信じることで、神様に会うことができます。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです」「この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった」だれでもイエス・キリストを救い主として信じ、心に迎え入れれば救われます。下の「受け入れのお祈り」を通してイエス・キリストを心に迎えることができます。

「愛の神様、神様の驚くべき愛と、救いの計画を感謝します。今、私は罪人であることを認めて、悔い改めます。私の心の扉を開いて、今、イエス・キリストを私の救い主、私の神様として受け入れます。私の罪を赦してください、私を救ってくださいましたことを感謝いたします。これからは、神様のみこころに従って生きる者にしてください。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン」

相談のある方は、いつでも連絡ください